

バリ取り機器で世界のリーディングカンパニーを目指す (株式会社 クロイツ)

会社概要(平成24年8月現在)

- 所在地:愛知県刈谷市野田町陣戸池102-7
- 代表者:代表取締役社長 中田 周一
- 資本金:3,000万円
- 売上高:6億8,000万円
- 従業員数:40名
- URL:<http://www.kreuz.jp/>

①事業概要

<バリ取り機器製造・販売>

株式会社クロイツは、バリ取り機器の専門メーカーである。バリ取りのコア技術を一筋に25年研究してきた。「バリ取りの全てを工学する」がその開発理念である。同社が開発したコア技術の代表的なものは、バリ取り用ロボット、バリ取り刃具、バラツキを吸収するフローチング装置、高機能スピンドルモータ、オフラインティーチングソフトなどで、より確かなバリ取りを行うための環境を整えている。

バリ取りはものづくりにおいて不可避、不可欠である。しかしその内容はユーザー、対象ワークによって様々である。また、バリ取りに特化したロボットは市場に少なく、周辺装置を含め選定するのは難しい。同社では現場を重視し、個々のユーザーの要求を満たすオリジナルシステムを提案し、高い評価を得ている。

②海外展開概要

<韓国、東南アジアにおける海外拠点の設置>

同社は、平成15年国際ロボット展(東京)に出展し、海外から高い関心を集めた。台湾、韓国、欧州の会社から海外展開を希望され、インテグレーターとしてクロイツのコアユニットを輸出し、現地でシステムアップを行うという形で販売を開始した。

その後、平成18年に韓国で販売拠点クロイツコアを設け、平成20年にはタイに生産・販売拠点のクロイツタイランドを設立し、タイ国内販売および輸出を開始した。

③取組の重点(活用した支援策を含む)

クロイツタイランド設立に先立ち、5年前にタイに合弁会社を設立し、エンジニアの育成を開始した。核となるタイ現地スタッフを育成した後、日本へ招聘し、技術だけでなく日本語を含め、徹底した教育を行った。平成20年にBOI認可を取得し、独資のクロイツタイランドを設立した。

また、平成21年よりJODC(現HIDA)専門家派遣事業を活用して専門家を派遣し、各分野ごとに現地スタッフの人材育成と技術レベル向上の教育指導を段階的に行ってきた。

欧州、台湾などのインテグレーターには、日本において最大3ヶ月の教育を行った。

これらの徹底した教育が成功の要因である。クロイツタイランドは、現在では日本本社工場生産高の半分ほどの生産高をあげるまでに成長している。

④今後の事業展開について

2年ほど前から、中国展開を開始した。中国へはクロイツタイランドから輸出を行っている。ターゲットは日系、韓国系の会社で、将来的には欧米の企業をターゲットにしている。中国ローカル企業については、インテグレーターの台湾企業を通して展開予定である。同企業にもJODC(現HIDA)専門家派遣事業を活用し、平成22年に専門家による現地スタッフの人材育成と技術指導を行ってきた。

今後も、クロイツ日本本社だけでなくタイ、韓国、インテグレーターと連携して、世界へ拡販していく。



顧客のニーズと共に進化するロボルータ

(平成24年10月現在)

データ出所:(財)海外産業人材育成協会(HIDA)